

土の素を使った赤玉土の改良法

赤玉土 改良するとしない とではこんなに違う生育の差 !!



※福助づくりの例 (同じ条件で栽培管理)

イイ花 咲かせるには
リン酸は不可欠
問題はいかに効率よく効かせるかにある

- 赤玉土はリン酸の効かないヤセた酸性土。ココを改良すれば極めて生育の良い土となる。
- リン酸の効きめがよくなれば根先や芽先などの生長点の細胞分裂が活発になり生長力を高める。また花の乱れや花ぐされを出にくくし花の肥大がよくなる。

リン酸は与えた量と吸った量とは別物。
与え方が問題 !!
赤玉土の改良は極めて効果的なリン酸対策です !!

赤玉土はなぜ改良が必要か !!

赤玉土は赤土が団粒化したもので、火山灰土!!

その性格は「有機物を含まないヤセた土」、「リン酸の吸着固定が激しく、リン酸が効かない」、「酸性土」です。

リン酸不足が起きやすく、「葉が巻き込む」、「葉がタレ下がる」、「葉がドス黒くなる」、「幹が太らない」、「花ぐされが出やすい」などが起きます。およそ、植物栽培に適した土とは言えません。

そこで、この欠陥を改善し、健全かつ、力強い生育をする培養土をつくるのが赤玉土改良の目的です。赤玉土の改良は、「ただ、白くカビが生えれば良い」と言うものではなく「ヤセた土の肥沃化」、「リン酸の補給と保護対策」「酸性矯正」を同時に、確実に行う必要があります。その最適な資材が「土の素」です。

※培養土に配合する赤玉土は、すべて改良して使用します。

この方法により改良した「改良赤玉土」もあります。ご利用ください。

作業手順



注) 赤玉土の量は配合表の半分の量で説明しています。
① 透水源をうすめます。
・次に糖蜜又は砂糖を溶かします。
※水の量は赤玉土の量の1/3くらいが目安です。



② 赤玉土に均一に水をしみ込ませます。
※時間をかけゆっくと水をしみ込ませます。
こうすると赤玉土の中まで水がしみ込みます。



③ 土の素、米ヌカ、モミガラくん炭 (前もって混ぜ合わせておく) を、赤玉土にまぶす感じで均一に混ぜ合わせます。
※赤玉土以外の材料には水は掛けない。



④ シートの四すみを持ち上げ材料を移動させながら混ぜ合わせると、赤玉土の形がくずれにくく、簡単に作業ができます。



⑤ 通気性のあるドノウ袋等に入れ有益微生物の増殖を促し改良を進めます。
※通気性が重要



⑥ ハウスのすみなど日当たりの良い場所 (暖かい所) に縦に並べ保管します。発熱をとめない改良が進みます。ドノウ袋は空気の流通が悪くなる為積み上げない。

使用材料及び資材



- ① 土の素
- ② 透水源
- ③ 糖蜜 (又は黒砂糖、なければ白砂糖)
- ④ 赤玉土
- ⑤ 米ヌカ
- ⑥ モミガラくん炭

おすすめ資材

赤玉土の中まで水が均一に染み込む



材料の配合割合

土の素14リットル1袋に対して

- ・赤玉土 5~6袋 (70~85リットル)
- ・米ヌカ 5~7リットル
- ・モミガラくん炭 4~5リットル
- ・糖蜜 500~1,000倍 (砂糖・黒砂糖を使用の場合は100~200g)
- ・透水源 2,000~3,000倍

※米ヌカの量を増やせば発熱量が多く、改良は早くなりますが、入れ過ぎると培養土にチッ素を多く持ち込む結果となり、特に苗の活着や発根が悪くなります。
必要以上の米ヌカは入れない。

(注) ●北海道、東北など春の気温が低い地方では、秋に赤玉土を改良し、培養土に混ぜても問題ありません。
●気温の低い時期に赤玉土を改良する場合は、米ヌカ・砂糖を2~3割程度増量すると、改良が円滑に進みます。



ドノウ袋で完成した改良赤玉土

